



## J-STAGEのサービス方針について (平成25年度の経緯と平成26年度の展望)

2014年3月18・19日  
J-STAGE意見交換・説明会

科学技術振興機構 知識基盤情報部  
サービス企画担当

### J-STAGEをめぐる情勢

- 誌数・機能を引き続き拡充
- 引き続き極めて厳しい財政状況の中、利用学協会様の全面のご協力のもとコスト削減努力を継続
- 科学技術情報発信・流通総合システム事業方針検討有識者委員会  
科学技術情報発信・流通総合システム (J-STAGE) 事業のあり方について (報告)  
<https://www.jstage.jst.go.jp/pub/html/pdf/AY04S260.files/130726.pdf>  
(文部科学省科学技術・学術審議会 学術分科会学術情報委員会(7月)、研究計画・評価分科会  
情報科学技術委員会(8月)において報告)
  - わが国発の内外への学術論文情報発信・流通インフラ強化の重要性
  - 限られた資源をメリハリをつけたサポートに有効活用
  - オプションサービスについては、一部自己負担の枠組みを導入することで、高機能なサービスを健全に継続

## 投稿審査システム利用規約の改訂について

(別紙参照)

- 基本的な考え方
  - サービスレベルに変更はございません。
  - オプションサービスとして、一部有償化のスキームを導入いたします。サービスの健全な継続のため、学協会規模に応じて事業経費の一部をご負担いただくものであり、付加的なサービスの“対価”としてお支払いいただくものではありません。【第3条】
  - 上記の基本的な考え方、および、J-STAGE投稿審査システムを各学協会様において最大限有効活用いただく観点から、従量制でなく、学協会あたりの課金方式となっております。（積極的にご活用いただくほど有利になります）【別紙】
  - 基本フローを超えるオプション機能のご利用には、有償化部分とは別に費用が発生します（現行の運用から変更はありません）。【第3条】
  - 本システムの運用効率化、サービス内容向上、機構の運営する他の事業・サービスとの連携等のため、JSTにおいてご利用情報（論文件数、査読通過件数、査読期間等）を統計的に取得する場合がございます。【第6条】

## 投稿審査システム一部ご負担部分に係る収受スケジュール

2014 4月	投稿審査システム利用規約改正	
5月	投稿審査システム利用学協会様向け最終アンケート	
6月		・平成26年度継続ご利用意志の確認
7月		・平成25年度末学協会規模の確認
8月	最終アンケートを元に、利用規約に基づき一部自己負担額算出、請求書作成、学協会様宛送付	
9月	納入期限	
10月		
11月		
12月～		

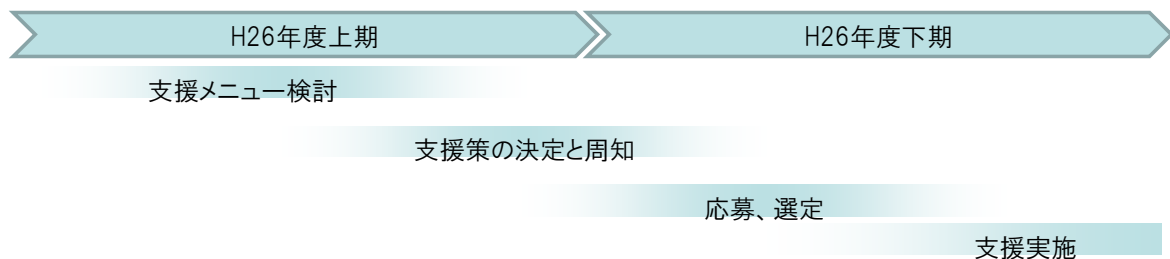
※スケジュールは現時点での予定です。  
※最新の状況等につきましてはJ-STAGEサイトをご確認ください。

## 投稿審査システム利用の終了をご希望の場合について

- 前回のアンケートで利用終了ご希望と回答されたジャーナルについては、一部利用料負担対象誌にはなりません。
- 平成26年度初頭にご利用終了のご案内を差し上げてまいります。
- 利用規約に基づき、JSTがご利用終了の連絡を差し上げてから6ヶ月目以降は、投稿審査システムへのログインはできなくなります。審査原稿等、必要なデータはそれまでにダウンロードをお願い申し上げます。
- 学協会様都合により投稿審査システムご利用を終了される場合のJSTへの告知時期を、ご利用終了の「6ヶ月前まで」から「3ヶ月前まで」に緩和いたします。【第9条】
- 一定の基準（投稿数50件/年）を著しく下回る状況が継続しているジャーナルについては、当該ジャーナルにおける学協会様側の事務工数縮減効果、および事業効果の観点から、投稿審査システムご提供の終了も視野に、サービスご利用継続につき個別にご相談させていただきます。

## 重点支援策検討

- **現在の検討状況**
  - (投稿審査システム利用学協会の場合)  
**投稿審査システム一部負担額の軽減措置**
  - **プロモーションサポート**  
おもに海外へ、ジャーナルの特性や想定読者層等にあわせたプロモーションの実施を検討中
- **平成26年度 想定スケジュール**（試行的実施により効果を測定）

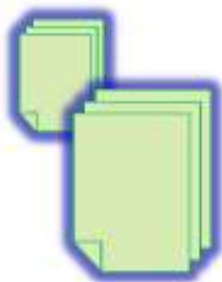


みなさまのご意見・ご要望等をお寄せください

## J-STAGE Lite(仮称) 機能の構築

- より簡便に記事を掲載できる機能のJ-STAGE上への実装めざす  
(おもな想定仕様)
  - 用意するファイルはPDFファイル(透明テキスト付き)のみ
  - 書誌情報はWeb画面から入力、システム上はXMLで保持
  - 記事にはDOIを付与
  - 一部応用機能については制限あり
- 平成27年度リリースに向け開発準備中
- 新規掲載誌の拡大によるJ-STAGEコンテンツ拡充等が期待される

システム・サービス等は計画・設計中です。  
仕様改善等のため変更される場合があります。



## J-STAGEサービスについて

- ID/パスワード等の認証情報は各学協会様において厳格な管理をお願い申し上げます(サービス全体のセキュリティ維持にご理解・ご協力をお願い申し上げます)。※パスワードは8文字以上で設定ください
- 登載作業担当者様交代等の場合は、認証情報・および操作手順等について、学協会様にて確実な引継ぎをお願い申し上げます。
  - J-STAGEセンター等では引継ぎに係るサポート、再講習等は行っておりません。(編集・登載ノウハウは各学協会様の大切な資産)
- (ご案内済)平成26年3月末をもって、BIB+PDFジャーナルについてはJ-STAGEセンターにおけるお問合せ対応を終了します。
  - **通常の登載手順・工程・操作方法についてのご案内**
  - **BIBデータ仕様(記述内容等)についてのご案内等**
    - BIB+PDF形式での新規掲載誌受付は平成24年4月で終了しております。
    - BIB+PDF形式によるデータの登載自体が行えなくなるわけではございません。
    - 予稿集等についてもBIB+PDF形式によるデータの登載自体は引き続き可能ですが、ジャーナル同様、新規仕様の追加や操作方法の変更等は将来にわたり発生いたしませんので、学協会様においてノウハウ等の確実な引継ぎをお願い申し上げます。(マニュアルの公開等は継続いたします)

## J-STAGEにおけるジャーナルポリシーの方向性(学協会様とともに検討)

### ● 発行機関連絡先情報、ジャーナル情報の公開・更新をお願いします

#### － メールアドレスの公開

- 電子メールは、読者から発行者へのもっともシンプルで確実な連絡手段
- フリーアドレス等であっても、メールアドレス自体の公開を推奨 (J-STAGE発行機関公開連絡先情報としては原則必須)
- メール入力フォーム等のみとすると、ブラウザの設定や言語環境により、正常に動作しなかったり、文字化け等を起こすことがあるため、やむを得ずフォームのみとする場合には、これらについても十分な配慮が必要

※ 連絡先に変更のあった場合は、掲載連絡先情報も速やかに変更をお願い申し上げます。

#### － ジャーナルポリシー、関連情報の公開

- エイム・アンド・スコープ
- エディトリアルボード
- 投稿者向けインストラクション
- おすすめ記事
- カバーアート
- 学協会からのお知らせ



**いずれの項目も、編集・登載システムからいつでも掲載・編集が可能です**

みなさまのご意見・実践例等をお寄せください

Department of Databases for Information and Knowledge Infrastructure, JST 2014

9

## J-STAGEにおけるジャーナルポリシーの方向性(学協会様とともに検討)

### ● データの活用・流通促進

#### (アクセスログ等)

- ログ等の活用によるサービスの向上、学協会様における編集方針・戦略立案

#### (コンテンツ・研究データ等)

- 先進的機能研究開発・実装等のため、J-STAGE公開論文データを活用 (例)

類似画像を使った検索システムのFSについて

【目的】  
画像、論文に紐付いたデータや画像を扱うための技術開発を行うと共に、画像データ収集の用途開発、必要性などを確認する。

【機能イメージ】  
学内にある画像を入れると類似画像が類似検索に出てくる。  
J-STAGE本文へのリンクでアクセス可能

【現在想定されるメリット】  
- 分野を揃えて、用語(専門用語、外国語)が分からなければ似た画像を検索できる。  
- 似たような画像を使っている研究事例を見つけ出せる。  
- 新たなアクセス方法として利用され、論文へのアクセス数が増える。  
- 画像やデータの引用・共有の文化が生まれ、研究加速

【現在の課題】  
開発に当たっては、JST以外のノウハウがなく、この分野の新しい研究等々と連携して実施。  
株式会社 数研 (北海道大学 情報科学研究科) <http://sda.nict.ac.jp/>

Copyright © 2014 JST. All Rights Reserved.



#### (研究者データ等)

- ORCID等との連携  
→ 投稿審査システムからのデータ投入、編集・登載システム、研究者情報サービス(ReaD & Researchmap※ 等)との連携も視野  
※ ReaD&Researchmapは、4月よりresearchmapと名称が変わります

みなさまのご意見・実践例等をお寄せください

Department of Databases for Information and Knowledge Infrastructure, JST 2014

10

## J-STAGEにおけるジャーナルポリシーの方向性(学協会様とともに検討)

- **オープンアクセス(OA)の急速な進展**
  - J-STAGE新規登載誌の選定にあたっては、本文アクセスにより障壁の少ないジャーナルを優先的に採択
- **Google等、世界的な検索・情報サービスからの要請**
  - 「インデキシング上、完全OA、ムービングウォールOA(1年後以降はOAなど)といったポリシーを把握したい」(Google)、OAについての要求事項(PMC)等
- **読者からの要請**
  - 「投稿に当たりジャーナルの公開ポリシーを知りたい」「J-STAGEにおいて、OAジャーナルはどれか」等
- **J-STAGE・各学協会において、各ジャーナルのアクセス(公開)ポリシーを明確化する機運が拡大**
- **OAの潮流を十分に意識する必要**

みなさまのご意見・実践例等をお寄せください

Department of Databases for Information and Knowledge Infrastructure, JST 2014

11

## J-STAGEにおけるジャーナルポリシーの方向性(学協会様とともに検討)

- **オープンアクセスの進展とJ-STAGE**
  - J-STAGE3以降の新規登載誌については、フリー公開誌を優先的に採択。アクセス制限誌についても、一定期間後の解除を強く推奨  
→[ビジビリティ確保による認知度向上](#)
  - PDFセキュリティポリシー
    - 現状、J-STAGEでは改変不許可を推奨  
c.f. J-STAGE 運用マニュアル  
[https://www.jstage.jst.go.jp/pub/html/pdf/AY04S340.files/dai\\_1syou.pdf#page=21](https://www.jstage.jst.go.jp/pub/html/pdf/AY04S340.files/dai_1syou.pdf#page=21)  
データの流通促進上、そぐわない面も(例: Thomson連携)  
→[推奨基準の改訂を検討中](#)
  - (参考)「オープンアクセスに関するJSTの方針」(平成25年4月)  
[http://www.jst.go.jp/pr/intro/pdf/policy\\_openaccess.pdf](http://www.jst.go.jp/pr/intro/pdf/policy_openaccess.pdf)



**J-STAGEは、オープンアクセス、オープンサイエンスの  
インフラとしての役割を果たしていく必要**

みなさまのご意見・実践例等をお寄せください

Department of Databases for Information and Knowledge Infrastructure, JST 2014

12

## J-STAGEは2014年、15周年を迎えます

### ● 内外へのプロモーション、PR(おもなもの)

- 「アジア太平洋医学雑誌編集者会議」 APAME 2013 (8月、東京)
- 「SciELO 15 Conference」 (10月、サンパウロ(ブラジル))



SciELO15におけるプレゼンテーションの様子(2013.10.25)

- 「図書館総合展」 (10月、横浜)
- 新たな閲覧者層の開拓
  - 昨年度の企業向けプロモーションに続き、今年度は大学向けパンフレット等による訴求を実施 (国内約5,000の大学研究室等に配布予定)



### ● J-STAGE15周年記念企画

#### 「J-STAGE15 スペシャルセミナーシリーズ」を開催予定

- 第1回：4/8 (by Google Scholar)



Department of Databases for Information and Knowledge Infrastructure, JST 2014

13

## 学協会様向けのご案内について

学協会様向け情報は  
こちらから！



### ● 「発行機関連絡先」情報は常に最新のものに更新をお願いいたします！

編集・登載システムにご登録いただく連絡先は、JSTのみならず、読者等からの連絡先としても利用され、ジャーナルの品質管理上非常に重要な情報となりますので、変更等があった場合は、すみやかに更新くださいますようお願い申し上げます。

【発行機関連絡先情報変更のしかた】

1. 編集登載システムにログインします。(https://www.jstage.jst.go.jp/edit/)
2. 編集登載系TOPの「サービス管理」をクリック
3. ページ上部「資料情報管理」をクリック
4. 変更したいジャーナルの右側にある、「編集」を選択します。
5. 上から5段目、「発行機関連絡先情報」をクリックします。
6. 右のような画面が表示されるので、発行機関連絡先表示情報を更新→画面下部の「登録」をクリックします。

※くわしくはJ-STAGE [利用学協会の方] ページの「J-STAGEマニュアル」- 「J-STAGE操作マニュアル サービス管理編」をご覧ください。



関連情報はツイッター、メールマガジンでも配信しております

Department of Databases for Information and Knowledge Infrastructure, JST 2014

14